

平成29年度 シラバス (海洋環境)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科(科目)	水産(海洋環境)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(資源育成コース)
使用教科書	文部科学省著作 海文堂出版(株)「海洋環境」				
副教材等	なし				

1. 学習目標

海洋や陸水の環境に関する基礎的な知識と技術を習得し、水産業や海洋関連産業における海洋保全に活用する能力と態度を身に付ける。また環境の特性に配慮した水産増養殖や海洋保全などのあり方について、生徒が主体的に考える態度を養う。

2. 指導の重点

地球規模の大気汚染、表・底層海流などの環境変化は、海洋や陸水などの環境に対して直接的に大きな影響を及ぼしています。また海洋工事や各種の増養殖事業などの開発行為は海洋環境の変化と深く結び付いており、このような海洋環境問題に対して適切な対応が求められています。以上のことから、この科目では環境の特性に配慮した水産増養殖や海洋保全などのあり方について生徒が主体的に考え、海洋環境保全に活用できる能力と態度を身に付けることを目指します。

3. 指導計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	○漁場環境の特性 (1学期中間考査)	○養殖場の環境 ○増殖場の環境	○増養殖場における環境特性を理解し、適切な資源増殖技術および対策方法について考えを深める。	1 1	○定期考査 ○授業への取組
6 7	○漁場の調査 (1学期期末考査)	○海洋の観測方法 ○水質の調査 ○生物の調査	○気象・海象観測や漁場環境の保全に必要な調査に関する知識を身に付ける。	1 5	○提出物(レポートやノートの内容と提出期限)
9 10	○漁場造成技術 (2学期中間考査)	○人工漁場の造成技術 ○増養殖場の計画と設計	○人工漁礁や築磯などの漁場の造成技術に関する基礎的な知識を身に付ける。	1 7	
11 12	○環境修復技術 (2学期期末考査)	○藻場・海中林の造成 ○干潟の造成	○海洋生物の繁殖や成長に適している環境の造成や環境改善に必要な技術について理解を深める。	1 2	
1 2	○環境改善技術 (3学期期末考査)	○魚道 ○水理環境改善技術	○河川を遡上する魚類に影響を及ぼす河川構造物について理解し、改善方法について考えを深める。	9	

計64時間(55分授業)

4. 課題・提出物等

単元ごとにレポートの提出を指示することがあります。
また定期考査終了後に授業ノートを回収します。

5. 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○海洋や陸水の環境に強い関心を持ち、意欲的に課題を探究しようとしている。 ○自らの生活と海洋環境との関連性について考え、海洋環境調査および保全技術等を習得し、活用しようとしている。	○海洋環境が抱える諸課題に関心を持ち、様々な課題に対しての適切な保全の在り方について考察し、表現することができる。	○海洋の調査において目的に応じた調査方法を選び、それらの操作を的確に行うことができる。	○海洋や陸水の環境特性や保全技術、増養殖における環境要因等の基礎的な知識を持ち、問題点を理解している。
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取組状況 ・課題・レポートの提出（内容・提出期限） ・定期考査 <p>などから総合的に判断します。</p>			

6 担当者からの一言

自然環境の保全と人間生活との関係を理解し、人間と自然とが共生できる豊かな生活環境を守り続けるために自然環境が抱える問題点を見出し解決するために必要な環境保全のあり方について学ぶ科目です。また漁業や水産増養殖を行う上で身に付けていなければならない重要な知識となります。海洋環境の調査方法や環境保全について学習し、水産業および沿岸域の社会基盤の整備・維持・管理に貢献する能力と態度を身に付けるために努力しましょう。

(担当：増田 真之介)